

第620回番組審議会報告
2017年7月4日開催

■出席委員

佐藤卓己委員長 佐藤友美子副委員長 今井美樹委員 太平信恵委員
津村記久子委員 中野健二郎委員（書面） 東野博昭委員 細見良行委員
丸山雅也委員

■毎日放送出席者

三村社長 梅本専務 木田常務 中村制作局長 上野プロデューサー
山内ディレクター 大牟田コンプライアンス室長兼番組審議会事務局長

◆議事の概要

テレビ番組『 僕が舞台を降りる日 ～芸人解散ドキュメント～ 』
(2017年5月30日(火) 24:59～25:59放送)
について意見交換した。

【各委員の主な意見は次の通り】

- *放送前から、番組のタイトルを耳にし、興味をそそられ期待していた。それはやはり「やめる」というところに焦点を当てたこと。プロ野球の『戦力外通告』をテーマにした番組もあるが、あれは「君、いらぬ」と言われるほう。今回に関しては、自分たちで「やめるという決心をする」、そこにどんな思いがあるのだろう。こうしたテーマの番組は初めて見た。
- *解散する芸人コンビらのドキュメント部分のVTRを、スタジオの木下（TKO）、埴（ナイツ）、伊達（サンドウィッチマン）という3人が見て話すというスタイル。報道局のドキュメンタリーだと、この3人はいなくて、ナレーションで追いかけていくだろう。だから3人を芯に据えたところが、制作局によるバラエティードキュメンタリーだなあと思った。その点、見やすかった。
- *番組の最後で、芸人を辞めた人の再出発にまつわるパートが数分あった。ああ再出発ものになってしまっている、というのが残念。「やめた」というところ、お客さんに挨拶して頭を下げたところで、潔く終わったほうがよかったかもしれないと思った。
- *今回は芸人のリタイアにフォーカスを当てた本当に興味あるテーマ。遅咲きで売れた3人のトークをからませた番組制作、すごく説得力があっっておもしろかったが、何かテンポの悪さが気になった。
- *エンディングが何となく「あれ？ 終わっちゃった」という感じがあって、もうちょっとあってもよかったかなと思った。

- *質の高い番組だ。お休みの日の昼間とか夕方に再放送してみて「どんな反応があるのか？」というのもすごく興味がある。
- *ドキュメント部分のVTR画面に、スタジオ出演者の3人が画面の小窓内でコメントする手法（ワイプ）が効果的だった。あまり知らない芸人さんについて「え、解散したの？」とか、「2人とも引退したの？」というふうに3人に言ってもらう事で、「あ、それなりに注目されていた芸人さん達だったんだ」と、その芸人さん達を全く知らない私たちもその流れについていけた。ワイプの効果的な使い方を示した一例だ。
- *もうやめた芸人にとどまらず、今も続けている芸人を紹介しているのも面白かった。野心的ないい番組だと思った。
- *登場する芸人が関西に偏ってなかったのもよかったのかなと思った。
- *コンビを紹介するプロフィールのテロップがすごくきれいにまとまっていた。ぱっと1つで芸歴とコンビ名と両者の名前と年齢みたいなことが見られるような表示がすごくわかりやすくていいなと思った。
- *皆さん男性ばかりで、何で女性の芸人を取り上げなかったのかと思った。
- *本当に聞かれたくないことを聞くことになるが、そういうところに食い込んだ番組ができていて感心した。
- *この番組は放送種別でいうと「娯楽」なのか「教育」なのか？制作者は娯楽番組だと言われたが、まさに教育番組として分類してほしい番組だ。

【番組制作者側の説明、質問への回答】

- *入社以来ずっと制作セクションに所属。今回、いつもと違う切り口の番組をやっているという企画募集があり、まずシンプルに自分の見たいものを改めてやりたいと考えた。バラエティ番組を中心に、基本、知名度のある芸人さん達と仕事をしてきたが、その裏で全く無名の芸人さんが人知れず去っていったとか、知らない間に解散していた等、色々な陰の部分も見てきた。その部分に、テレビというメディアを通して本音に迫りたいと考え、今回の番組を企画。出演者らと時間をかけて話し合い、完成にこぎつけた。
- * 「教育」か「娯楽」かでいうと、「娯楽」。制作する側からは、特にメッセージ的なものは何もなく、何を感じてもらおうかは見ていただく方それぞれだと思っている。
- *女性が出てこない事に関しては、言われてハッとしたが、10年以上続けていて売れていない女性の芸人はほとんどいない、存在していないという

ことが言える。今メディアに出ている人たちは、30歳ぐらいで売れてそのまま芸能界に残っている人だ。

*スタジオの3人の中に女性芸人を入れるという話はあったが、スケジュールの兼ね合いなどでなくなった。女性芸人としての生き方というのは、また違うベクトルがあるので、もし女性芸人が3人の中に入っていたら違う話が出てきて、もうひと広がりしたかも知れない。

以上